

JESC奨励賞プレゼンテーション原稿／森蘭奈(もり らんな)

昨年、NSM ダンス&アクターズ科は、博物館 明治村様より、多くの企業課題を頂戴いたしました。

その課題の中で今回プレゼンテーションをさせていただくのは、

- 「赤ゲットの幽霊」です。
- 赤ゲットとは、●明治初期、軍隊や地方の人々の間で使われた赤いブランケットの通称です。
- 「赤ゲットの幽霊」の物語は、その赤ゲットを題材に描かれています。

●♪ (音楽)

台詞「この廊下の奥の病室には、須磨子の亡くなったベッドがあります。ベッドには赤ゲットが置かれています。

- その赤ゲットの上に、その靴をそっと置いてきてください。須磨子はきっと成仏できるはずです。では、気をつけて行ってらっしゃいませ。」
- ♪ (驚かせる効果音、大きな物音・悲鳴など)

- 「赤ゲットの幽霊」は村内の歴史的建造物を使用する、お客様の体験型お化け屋敷です。

● 学校の教育理念をご理解いただいている明治村所長の鷲見様からは、● 「実学教育の一環としてもキャストとなる学生の皆様に、是非、● お客様をストーリーの中に引き込んで頂きたい」という要望があり、今回、お話をいただきました。

「赤ゲットの幽霊」は、明治村 50 周年ということで企画されました。

プロデューサーは、● お化け屋敷プロデューサーで有名な「五味弘文」氏です。

● 五味弘文氏は、「情熱大陸」にも取り上げられるほど有名な、お化け屋敷プロデューサーです。「赤ゲットの幽霊」も番組の取材が入り、HP などで紹介されております。

- “五味流” お化け屋敷は
- 「ストーリー性を持たせる」
- 「お客様にミッションを与えて、物語に参加させる」、そして
- 『怖い』は『楽しい!』の3つの特徴があり、その完成度を極限まで追求し、最高級の“怖さ”を演出します。

- 期間は、7月11日から9月23日の間の、53日間。
 - アクター・声優ワールド1年生、2年生、総勢39名の学生が参加しました。
 - まず、契約を交わすこととなります。
- このようなイベントは情報の守秘義務もあること、また、
- お客様と接していくための、細かい対応マニュアルがあることなども、勉強になりました。

その後、明治村様にて、研修が行われました。

- プロによる「メイク・着付け」の講座と、●五味弘文氏からの「演技指導」です。
- お化けのメイクは、普段、演劇公演などで行うものとは●違い、特殊で新鮮でした。
- 役のイメージを考慮されて、●少しずつポイントも違います。
- 五味弘文氏も入り、確認が行われます。
- 演技指導も、各場所にて●五味弘文氏から直接行われ、●お客様のひきつけ方や●怖がらせるための表現技法など、●とても貴重なアドバイスをいただくことが出来ました。

- オープン前のプレスでは、多くのマスコミの方にもお越しいただきました。
- 中日新聞、毎日新聞、朝日新聞などにも掲載され、
- 期待度を感じ、私達の責任感が、更に高まりました。
- 「赤ゲットの幽霊」は、オープン初日から人気を呼び、●入場規制がかかるほどのイベントになりました。●イベント期間中に、明治村様を訪れたお客様の、78%が「赤ゲットの幽霊」を目的としていました。
- 来場者数も、前回明治村が企画したイベントより、●154%も上がり、のべ16,603名の方にお越しいただきました。

多くの来場していただいたお客様のためにも、
イベントを成功させるためにも、私達は工夫を凝らしました。

- まずは暑さ対策。夏に行われることと、●使用する施設が重要文化財に指定されており、エアコンなどの設置ができないことなどもあり、●熱中症の対策のために、各自、ドリンク、塩分の補充を徹底して行いました。
 - 次に、キャストが39名もいるので、情報を共有する為、●連絡ノート、LINEの作成。その日に起こったことなどを記入し、引き継いで対応していきました。
- お客様の反応も様々で、キャストに絡んでくる方や、●なかなか前に進まない方などいました。
- キャストそれぞれに、「赤ゲットの幽霊」の世界観を崩さないような「対応力」が身につきました。

イベント終盤、

●プロデューサーの五味弘文氏が明治村様を訪れ、「赤ゲットの幽霊」を体験されました。

●「キャストの演技力が向上していることにより、入場規制がかかるほどに来場者数も増え、とても嬉しいです」とご評価をいただきました。

参加した、私たちキャストの励みになるお言葉で、とても嬉しかったです。

●明治村様からも、

「予想以上の来場者数で●学生さん達の貢献にとっても感謝しています。●演技力・実践力の向上はもちろん、●若い方に、明治時代の歴史・文化に触れていただくことが●出来て良かったです」と、お言葉をいただいております。

●私たちはこの企業プロジェクトに参加出来たことを誇りに思います。

今回このプロジェクトを通じて、●パフォーマーとしてだけでなく、●場内整理や受付、

●アナウンスなど運営側の事も経験し、また、ひとつの企画・●イベントを成功させるために、どれだけの人の協力が必要かを学びました。

そしてその先にある感動の大きさを学びました。

1年生はこの経験を糧に、これからの学業・イベントで活かして成長していきます。

●そして参加した2年生の多くは、この経験を糧に、卒業後それぞれの夢を叶えるために俳優や声優のプロダクションに進みます。中にはこの経験を活かし、イベント会社に内定が決まった学生もいます。

私たちは今回の経験を大きな財産とし、役立てていけるよう、

日々精進していきたいと思っております。

以上でプレゼンテーションを終わります。●ご清聴、ありがとうございました。